

## 国有林野事業における技術開発基本目標

平成 11 年 4 月 30 日 11 林野業第 32 号  
林野庁長官より各森林管理局長・森林総合研究  
所長・林木育種センター所長 宛

【最終改正】 平成 31 年 2 月 27 日付け 30 林国業第 219 号

国有林野事業において行う技術開発の合理的かつ効率的な推進を図るため、国有林野事業技術開発実施要綱（昭和 55 年 1 月 17 日付け 54 林野業第 263 号林野庁長官通達）第 2 の 1 に基づき、本目標を定めるものである。

### 1 目標設定に当たっての背景

我が国の森林面積の約 3 割に当たる国有林野を管理経営している国有林野事業は、国土の保全その他の公益的機能の高度発揮等に重要な役割を果たしてきたところである。

こうした中で、森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源の涵養に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等の面での期待が高まるなど、公益的機能の発揮に重点を置きつつ多様化してきている。

加えて、多くの森林が利用可能な段階を迎える中で、民有林においては、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理の両立を図るため、市町村が森林所有者から森林の経営管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に再委託を行うとともに、再委託できない森林等については、市町村が公的管理を行う森林経営管理制度が平成 31 年度から導入されることになる。

こうしたことを踏まえ、「国有林野の管理経営に関する法律」に基づき、平成 30 年 12 月 25 日「国有林野の管理経営に関する基本計画」（以下「管理経営基本計画」という。）が策定され、公益重視の管理経営の一層の推進や、技術力の活用等による林業の成長産業化の実現への貢献を柱とした基本方針が示されたところである。

### 2 技術開発の推進方向

国有林野事業における技術開発については、管理経営基本計画を踏まえ、多様な森林とまとまりあるフィールドを有し、公益重視の管理経営や林産物の安定供給を行ってきたという国有林野事業の特性を活かし、民有林における公的管理や林業経営への普及を念頭に置き、公益的機能の高度発揮や林業の低コスト化等に資する技術開発、特に実用段階に到達した先駆的な技術や手法の実証について、森林技術・支援センターを中心として、産学官連携の下に、より一層推進することとする。

また、課題の設定に当たっては、民有林も含めた既存の課題や成果報告等との重複を排除するよう留意した上で、他の課題の中間・完了時点での評価を活用・反映させるこ

とにより、それぞれの課題の成果が早期かつ着実に実用化に結びつくよう取り組み、得られた成果については広く周知することで、国有林野の管理経営や民有林における普及・定着に資するよう取り組むものとする。

さらに、試験研究機関等からの長期的視点に立ったモニタリング、データ収集などの要請に対して、持続可能な森林経営や地球温暖化防止対策等の課題を踏まえた上で、国有林野事業の特性を活かした積極的な協力を努めることとする。

### 3 技術開発基本目標

以上を踏まえ、民有林への普及も念頭に、かつ流域毎の自然的特性を勘案し、林業の低コスト化等に関する目標として(1)を、機能類型区分に応じ公益的機能の高度発揮を図るための森林施業等に関する目標として(2)を、また、効率的な森林管理全般にわたる目標として(3)を設定する。

- (1) 林業の成長産業化に資する造林・保育・生産技術の確立
- (2) 公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全技術の確立
- (3) 効率的な森林管理及び健全な森林の育成技術の確立

### 4 技術開発基本目標設定に当たっての視点等

各々の技術開発基本目標設定に当たっての考え方及び具体的事例は以下のとおりである。

#### (1) 林業の成長産業化に資する造林・保育・生産技術の確立

国有林野事業の特性を活かし、民有林経営においても活用可能な、林業の低コスト化等に向けた技術や手法について、先駆的な取組として事業レベルで試行するなどし、広く普及・定着するよう、

- ① 低密度植栽、特定母樹や早生樹等の成長に優れた苗木の活用、伐採と造林の一貫作業システム、下刈等保育作業の効率化等の低コスト造林手法
- ② ICT（情報通信技術）等の先端技術を活用した効率的な木材生産手法
- ③ 列状間伐や路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システム
- ④ エネルギー利用等木質バイオマス資源の有効活用に向けた未利用間伐材等の収集・運搬手法

等の技術の確立を図る。

#### (2) 公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全技術の確立

国有林野の機能類型区分に応じた公益林としての管理経営を推進するとともに、民有林での公益的機能の発揮にも資するため、

- ① 種の多様性・階層分化を低下させない天然林の管理手法
- ② 長伐期や人工林における広葉樹の導入による育成複層林への誘導及び林床植生の保全に適した施業方法
- ③ 環境保全的な小面積皆伐・モザイク伐採や更新等の施業方法

- ④ 野生動植物との共存に向けた森林整備手法
  - ⑤ 遺伝資源の適切な維持・保存や保護林のネットワークの形成等の生物多様性保全方法
  - ⑥ 優れた自然景観の維持や保健・文化・教育的利用法等の技術の確立を図る。
- (3) 効率的な森林管理及び健全な森林の育成技術の確立
- 森林の機能類型区分にかかわらず、効率的な森林管理、健全な森林の育成を実現するため、
- ① ICT等の先端技術を活用した効率的な森林資源情報把握や森林管理手法
  - ② 天然力を活用した森林育成技術
  - ③ 気象害・病虫獣害の効果的防止対策
- 等の技術の確立を図る。